

都市とライフスタイルの未来を描く国際会議 「Innovative City Forum 2019」開催 ～20年後、われわれはどのように生きるべきか？～

森ビル株式会社が運営する森美術館(館長:南條史生)とアカデミーヒルズ(理事長:竹中平蔵)、および一般財団法人森記念財団都市戦略研究所(所長:竹中平蔵)は、国際交流基金アジアセンターを共催者に迎え、都市とライフスタイルの未来を議論する国際会議「Innovative City Forum 2019(以下 ICF)」を、2019年11月19日、20日に、六本木ヒルズで開催します。

ICFは「都市とライフスタイルの未来を描く」をテーマに2013年から毎年開催している国際会議です。国内外から科学者、研究者、技術者、アーティスト、デザイナー、企業経営者、ジャーナリスト等、多様な分野のオピニオンリーダーを招聘し、科学技術の進展等による未来のライフスタイルや、その生活を支える都市の未来について議論を積み重ねてきました。これまでの登壇者は総勢289名にのぼり、今年は60名超が登壇する予定です。

7回目となる今年は、「第四次産業革命とその先の未来の姿」に着目し、世代を超えた議論を行います。基調講演には、BI ノルウェービジネススクール名誉教授で、未来と気候変動を中心とした持続可能な開発問題の権威であるヨルゲン・ランダース氏と、安藤忠雄建築事務所を経て建築・都市とテクノロジーを融合したコンサルティングを国内外で行う豊田啓介氏、森美術館館長の南條史生を迎えます。



国連のSDGsに「都市と人間の居住地を、包括的、安全、レジリエントかつ持続可能にする」という目標が掲げられているなか、現代の都市は高齢化、環境の悪化、食料やエネルギー供給の困難など、多様な問題に直面しています。一方で、科学技術の加速度的な進展により次々とこれらの問題が解決され、ライフスタイルも変革していくことでしょう。

そのような時代において、社会やライフスタイル、文化など多様な観点から最新の知見を結集し、未来への新たなビジョンをデザインする必要が出てきました。ICFでは、最善の未来を模索する方向を示唆すると同時に、人間の生きる意味とは何かといった根源的な問いについて、多角的な視点から議論します。

【Innovative City Forum 2019 開催概要】

会期:	2019年11月19日(火)～20日(水)
会場:	六本木アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)
参加費:	各セッション5,000円(税込) ※The Japan Foundation Asia Center セッション、ICF Hub セッションは各2,000円(税込)
主催:	森記念財団都市戦略研究所、森美術館、アカデミーヒルズ
共催:	国際交流基金アジアセンター
協力:	世界経済フォーラム、国際文化会館、ロフトワーク

森ビルは最先端の研究機関や大学、企業と連携し、様々な共同研究や実証実験に取り組んでおります。引き続き、六本木ヒルズをはじめとした“ヒルズ”を舞台に実験や発信を重ねながら、未来の都市とライフスタイルのあるべき姿を議論し、またイノベーションを生み出す都市づくりを実践することで、国際都市・東京の磁力向上に貢献してまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 服部、浅野

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

<ICF2019 の注目セッション>

■Future and the Arts Session :

人は明日どう生きるのか

科学技術の進展は「都市やライフスタイル」「社会システム」「経済システム」「自然システム」までも変革させつつあります。これらは人々の「幸福の価値観」にも変革を起こすことは確実ですが、その姿は誰にも分かりません。まさに不確実性の時代を迎えるなかで、各界の有識者とともに「都市・建築」「ライフスタイル・身体」「資本主義・幸福」の領域で起こりうる未来像を、アーティストの感性で描かれた未来と対峙させながら議論します。

*本セッションは、森美術館で11月19日より公開される「未来と芸術展」との連携プログラムで、出展アーティストも登壇します。

■Brainstorming for IR4 :

ビッグデータが変える社会 ～ガバナンス、経済、ライフスタイルは？～

21世紀はデータが石油に代わる重要な資源になると言われています。特にビッグデータの活用により、医療や社会サービスなどの質が向上し、人々のより良い生活水準が期待されます。一方で個人情報の管理に対する不信感や、監視社会に繋がる可能性を危惧する不安の声もあがっております。データがあらゆるモノ・コトのベースとなる社会の到来を目前に控えた今、どのような社会を目指せば良いのかについて考えます。

■Urban Strategy Session :

東京 2035—輝く都市～人は未来の都市空間に何を望むのか～

働き方改革が各所で進む近年、コミュニティ型ワークスペースや、リモートワーク・二拠点居住など、都市における時間と空間の使い方が多様化しています。そこで、新たなワークスタイルや生活スタイルを創造・実践している有識者からお話を伺い、新たなライフスタイルが都市にもたらす影響について議論します。

■The Japan Foundation Asia Center Session :

『Reverse IDEA』～アジアのダイナミズムから「新たな座標軸」を探る～

アジアの様々な地域で渦巻く力強さ、活力(ダイナミズム)のなかには、私たちが普段見逃している『Reverse IDEA』が満ち溢れています。未来に向かって進むなかで、自由闊達なアイデアや示唆に富む活動を生み出す「新しい座標軸」について、『Reverse IDEA』をヒントに、議論します。

<Innovative City Forum プログラムコミッティ>



竹中平蔵(左)「テクノロジーを都市に実装するための、信頼にもとづく市民ビッグデータの活用とガバナンスのあり方を模索していきたいと思えます。」

市川宏雄(中央)「未来は必ずやってきます。いつか都市の分岐点に立ったときのために、参加者がそれぞれヒントを持ち帰れるような機会にしたいと考えています。」

南條史生(右)「テクノロジーは、人間を幸せにするのか。あらためて人間らしさとは何か。こういった問いについて、ICF という場で考えていただけたらと思います。」

*詳しくは ICF2019 インタビューページ <https://icf.academyhills.com/interview/> をご覧ください。

*プログラム、登壇者は変更になる場合があります。最新情報は <https://icf.academyhills.com> をご覧ください。

